

# 日経、英FTを買収 英ピアソンから1600億円で

2015年7月24日

英メディア大手ピアソンは23日、傘下の英経済紙フィナンシャル・タイムズ(FT)を、日本経済新聞社に売却すると発表した。(読売新聞)

8億4400万ポンド(約1600億円)で全株式を買収する。日経新聞はFTグループの買収により、世界的な事業展開を目指すとしている。

ピアソンが同日開いた取締役会で了承した。FTグループが保有する英誌エコノミストの株式(50%)や、ロンドンのFT本社ビルは売却の対象外。ピアソンは主力の教育事業に注力する。

FTは1888年創刊で、1957年にピアソンの傘下に入った。FTによると、有料読者数は73万7000人で、このうち電子版が約7割を占めるという。経済報道で定評があり、米ウォール・ストリート・ジャーナル紙と並び称される。

ピアソンのジョン・ファロン最高経営責任者(CEO)は23日、「携帯電話とソーシャルメディアにより、メディア業界は転換点を迎えた」との声明を発表した。

日経新聞は、新聞発行を中核とする事業持ち株会社で、2014年12月期の連結売上高は3006億円。日本ABC協会によると、日経新聞の今年6月末の朝刊発行部数は約273万部。電子版の対応を強化しており、同社によると有料読者数は43万人という。

## 日経新聞、世界相手にデジタル戦略加速か 英FT買収(朝日新聞デジタル)

日本経済新聞社が英経済紙フィナンシャル・タイムズ(FT)を買収するのは、国内の新聞市場が人口減少に伴い縮んでいるからだ。今後、アジアを中心に国際的なデジタル戦略を加速させるとみられる。日本語という壁が作り出す狭い市場の中でシェア争いをしてきた同業他社は、衝撃を受けている。

FTは世界のビジネス界で強固な地位を築く。近年はデジタル発信に力を入れている。親会社の英ピアソンによると、過去5年で紙媒体と合わせた購読数は30%増の73万7千部。その7割がデジタルだという。

FTのデジタル紙面は、世界のメディアの中でも数少ない成功モデルとされている。最大限の情報量を得ようとする、デジタル版だけでも年間約5万8千円と高額だ。それでも特ダネや出来事の背景説明、有力記者のブログ、コラムニストの解説などを通じて、内幕を描く記事が世界のビジネスリーダーや当局者に支持されている。

日経は、FTの翻訳記事を電子版に毎日掲載したり、記者を派遣したりするなど、以前から関係が深い。

FT親会社のピアソンとは、ビジネス英語と時事英語を学べるオンライン英語学習プログラムを共同開発もしている。企業が社員研修に導入する教材に日経やFTの記事をつかった教材を追加するなどビジネス面での連携を深めていた。

## 英紙フィナンシャル・タイムズ買収=日経新聞、1600億円で(時事通信)

日本経済新聞社は23日、英有力経済紙フィナンシャル・タイムズ・グループ(FT)を親会社の英出版大手ピアソンから買収することで合意したと発表した。買収額は8億4400万ポンド(約1600億円)で、日本のメディアによる海外企業の買収案件では過去最大という。FTは英国外の読者が多いとされ、日経は買収を通じて国際展開を進める。

FTは1888年創刊。電子版の有料読者が約50万人と全体の7割を占める。日経新聞も電子版事業を強化し、有料読者が43万人を超えている。両社は、経済情報はデジタル時代に成長が期待できる分野と位置付けている。

日経の喜多恒雄会長は「われわれは報道の使命を共有しており、世界経済の発展に貢献していきたい」とのコメントを発表。ピアソンのジョン・ファロン最高経営責任者(CEO)は「メディアの変革期において、FTの価値を最も高める道は世界的なデジタル企業と統合すること」と表明した。